



描写とは、書かれていることそのものを指しますが、できごとや人物、場面の様子などをくわしくしたり、分かりやすくしたりするための工夫された描写もたくさんあります。

描写されたものは、作者が見たものや感じたことを文章に書き表したものになります。

ですから、物語を読むときには描写をしつかりとらえて読むこと。そして、その描写から言葉や文章に含まれている**人物の気持ちや場面のふんいき**などを感じ取り、**想像しながら味わう**ことが必要になります。

くわしくしたり、分かりやすくするために工夫された描写にはつぎのようなものがあります。

- 行動を表す言葉
- 様子を表す言葉
- 音をあらわす言葉
- 慣用句
- 色を使った表現
- 比ゆを使った表現



やってみよう

子どものきつねは遊びに行きました。まわたのよつにやわらかい雪の上をかけ回ると、雪の粉がしびきのよつにとびちって、ちいさいにじがすつとつるりました。するととつぜん、後ろでドタドタ、ザッと、ものすごい音がして、パン粉のような粉雪が、ふわあつと子ぎつねにおっかぶさつてきました。子ぎつねはびっくりして、雪の中に転がるようにして十メートルも向こうへにげました。なんだろうと思つてふり返つてみましたが、何もいませんでした。それはもみのえだから雪がなだれ落ちたのでした。まだ えだとえだの間から、白いきぬ糸のように雪がこぼれていました。

ここでは、**比ゆを使った表現**に注目しましょう。

比ゆにはいくつか種類がありますが、あるものに例えて「まるで」のように「ようだ」という書き方で、その様子がよく分かるようにしたものです。

お母さんの笑顔は、まるで太陽のようにあたたかい。バケツの水をひっくり返したような大雨

くんはぼくらの前を風のように走り抜けた。

例えることでその様子がよく分かりますね。みなさんも作文や日記の中でよく使っている表現の工夫ですね。

比ゆを使った表現を次の文に合うように、上の文から抜き出して書きましよう。

まわた

のよつにやわらかい雪

パン粉

のよつな粉雪

転がる

のよつにして

白いきぬ糸

のよつに雪がこぼれていました。



ここがポイント

物語を読むときには、**作者が登場人物の気持ち(心情)**や**場面の様子(情景)**に**気をつけて読む**必要があります。作者は書き方(描写)の工夫をしながら心情や情景を表していきます。次の「てぶくろを買いに」の文章にもたくさんの工夫があります。

- ・えだとえだの間から、雪がこぼれていました。
- ・えだとえだの間から、白いきぬ糸のように雪がこぼれていました。線の部分があるほうが、より想像しやすくなりますね。いろいろな表現の工夫を見つげながら読んでいきますよ。

工夫された描写には左のような言葉や表現があります。覚えておくようにしましょう。

やってみよう

子どものきつねは遊びに行きました。まわたのよつにやわらかい雪の上をかけ回ると、雪の粉が、しびきのよつとびすって、さいさいとじがすつとつるのでした。するととつぜん、後ろで、ドタドタ、ザッと、ものすごい音がして、パン粉のような粉雪が、ふわあつと子ぎつねにおっかぶさってきました。子ぎつねはびっくりして、雪の中に転がるようにして十メートルも向こうへにげました。なんだろうと思ってふり返ってみましたが、何もいませんでした。それはもみのえだから雪がなだれ落ちたのでした。まだ えだとえだの間から、白いきぬ糸のように雪がこぼれていました。

(新美南吉)「てぶくろを買いに」(より)

右の文章に線を引いたところは、下の表現の工夫を用いている部分です。そう長くない文章ですが、たくさんの工夫がありますね。



様子を表す言葉

ゆっくり のっそり どっさり きらきらと
ぞくぞくと きゅっと 何度も何度も
みんながよく使う表現ですね。

音をあらわす言葉

ボタン ポチャン ドタドタ
ジュウジュウ カキーン
擬声語といわれるもので、カタカナで書きます。

色を使った表現

真っ白に 青ざめた 新緑の
なまり色 碧い(あおい)
色は、心情を表わすことも多いです。

行動を表す言葉

立ち上がる 投げつける
かけあがる にぎりしめる
それぞれ「立つ」「投げる」「走る」「にぎる」とはちがっていますね。

比喻を使った表現

風のように 氷のような
まるで海の中にいるような
～のように(ような)や、まるで～という書き方をします。

慣用句

首を長くして 頭をひねる
手を焼く 足が棒になる
言葉のもつ意味を覚えておくことも大切です。

こたえと説明

やってみよう

「ああ、そう式だ。」と、ごんは思いました。

「兵十のうちのどれかが死んだんだろう。」

お昼をすぎると、ごんは、村の墓地へ行って、六じぞうさんのかげにかくれていました。いいお天気で、遠くの向こうには、アおしろの屋根がわらが光っています。墓地には、ひがんばなが、赤いきれのように、さき続いています。と、村の方から、カーン、カーンと、かねが鳴ってきました。そう式の出る合図です。やがて、白い着物を着たそう列の者たちがやってくるのが、ちらちら見え始めました。イ話し声も近くなりました。そう列は墓地へ入ってきました。人々が通ったあとには、ウひがんばながふみおられていました。ごんは、のび上がってみました。兵十が、白いかみしもを着けて、いはいをさざげています。いつもは、赤いさつまいもみたいな元気のいい顔が、エ今日は、何だかしておれていました。

(新美南吉「ごんぎつね」より)



【1】音を表す表現(擬音語)を見つけ、それが意味するものを問う問題です。音を表す表現はカタカナで書くため見つけやすいですね。この音がその式の出る合図ということですから、その音のひびきを自分なりに想像しながら読むといいたいでしょう。

【2】①話し声が近くなるというとは、聞く側(ごん)に近くなっているということがわかります。

②おれるとは花の元気がなくなるときに使う言葉です。兵十の様子を花に例えて表現しているんですね。

【3】ごんの視点から見えるものとして書かれた描写を読み取る問題です。大変よい天気の中に、ひがんばなの赤と着物の白が引き立っていますね。たいへんきれいな描写ですが、ひがんばなはこのあとふみおられてしまいます。同じように赤いさつまいもみたいに元気な兵十の顔もおれていて、ごんから見たらどちらかわいそうと気持ちになっただけではないでしょうか。

上の文章を読んで次の問いに答えましょう。

【1】音を表す言葉(擬音語)を文中から書き抜きましょう。

また、その音が意味するものは何なのか、文中から抜き出して書きましょう。

音を表す言葉

カーン、カーン

その音が意味するもの

そう式の出る合図

【2】次のことが分かる文は線ア～エのどれですか。記号を書きましよう。

① そう列の者たちがごんの方に近づいている。

(イ)

② 元気がなくしている兵十

(エ)

【3】じぞうさんのかげから、ごんが、見ているものを、順に書き出しましょう。

どんな	何・だれ
① 光っている	おしろの屋根がわら
② 赤いきれのよつにさき続 つづる	ひがんばな
③ 白い着物を着た	そう列の者たち
④ ふみおられていた	ひがんばな
⑤ 白いかみしもを着けて いはいをさざげている	兵十
⑥ 何だかしておれている	(兵十の) 顔

読む

描写から読み取る③

名前

こたえと説明

(前略)

いわし売りは、いわしのかごを積んだ車を道はたに置いて、びかびか光るいわしを両手でつかんで、^{やすけ}弥助のうちのの中へ持って入りました。ごんは、そのすき間に、かごの中から、五、六びきのいわしをつかみ出して、もと来た方へかけだしました。そして、兵十のうちのうら口から、うちの中へいわしを投げ込んで、あなへ向かってかけました。とちゅうの坂の上でふり返ってみますと、兵十が、まだ、いどの所で麦をといでいるのが小さく見えました。

ごんは、うなぎのつぐないに、まず一つ、いいことをしたと思いました。

次の日には、ごんは、山でくりをどっさり拾って、それをかかえて、兵十のうちへ行きました。うら口からのぞいてみますと、兵十は、昼飯を食べかけて、茶わんを持ったまま、ぼんやりと考えるでいました。変なことには、兵十のほっぺたに、かすりきずが付いています。どうしたんだらうと、ごんが思っていますと、兵十がひとり言うので、ごんが「これはいわしなんかを、おれのうちへほうりこんでいったらう。おかげで、おれは、ぬす人と思われて、いわし屋のやつに、ひどい目にあわされた。」と、ぶつぶつ言っています。

ごんは、「これはしまった」と思いました。「かわいそうに、兵十は、いわし屋にぶんなぐられて、あんなきずまで付けられたのか。」ごんはこつ思いながら、そつと物置の方へ回って、その入り口に、くりを置いて帰りました。次の日も、次の日も、ごんは、くりを拾っては、兵十のうちへ持ってきてやりました。その次の日には、くりばかりでなく、松たけも二、三本、持ってきていました。

やってみよう

【1】—の部分から、ごんの行動を順を追って書き抜きましょう。

つかみ出して

かけだしました

投げ込んで

かけもどりました

もと来た方へ
うちの中へいわしを
あなへ向かって

【2】—線アの部分から、ごんのどんな気持ちが想像できますか。ふさわしいもの()一つ をつけましよう

兵十を困らせよう。
いわし屋につぐないをしよう。
もつと兵十を喜ばせよう。

()
()
()

【3】ごんが「これはしまった」と思ったのはなぜですか。ふさわしいもの()一つ をつけましよう。

自分のしたことで兵十にめいわくをかけたから ()
兵十がいわしを食べてはらをこわしたから ()
兵十はいわしよりもうなぎがすぎだったから ()

【4】—線イの部分のごんの行動は、【1】の行動と比べると気持ちの変化が見られます。ごんの行動のどの部分に違いがみられますか。違いのみのられる部分を丸でかこみましよう。

ごんはこつ思いながら、そつと物置の方へ回ってその入り口に、くりを置いて帰りました。



【1】のごんは乱暴に魚をあつかう様子やいそいでいる感じが感じられましたね。【4】の部分では「そつと」動いて、栗を投げるのではなく置いたところが違いますね。

いいことをしたつもりが、自分が投げ込んだいわしのこと兵十がなぐられたわけだから。

どっさり拾っての「どっさり」がなかったらどんな感じがしますか？。わざわざ「どっさり」拾うごんの姿は、兵十に喜んでもらいたい気持ちがいっぱいですね。

ごんの行動からはどんな様子が想像できますか。「つかむ」と「つかみ出す」、「投げる」と「投げ込む」の違いからも、いそいでいるごんの様子がかえる書き方ですね。